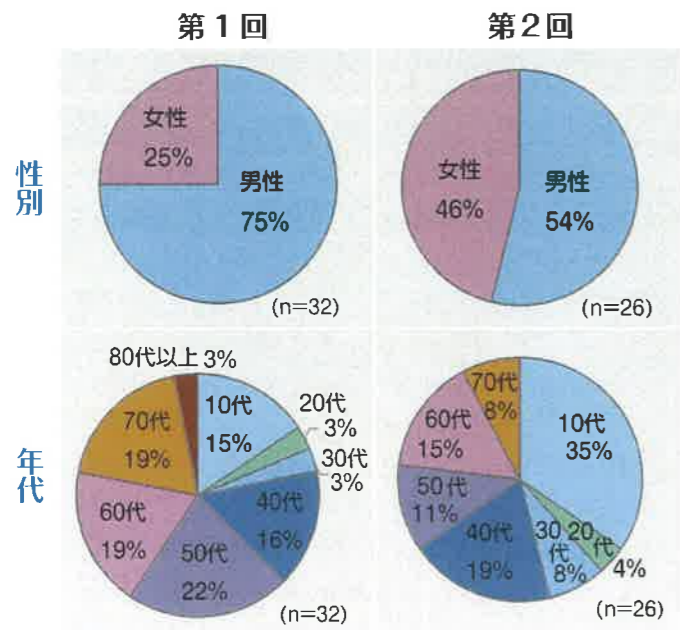


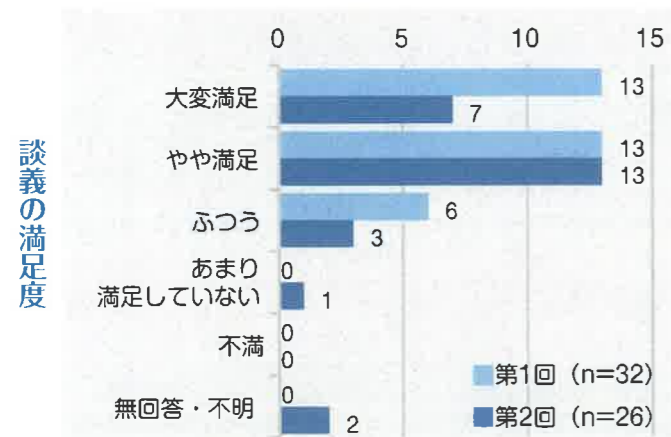
参加者のご意見を談義の進め方に反映させながら進めています

～参加者アンケート～



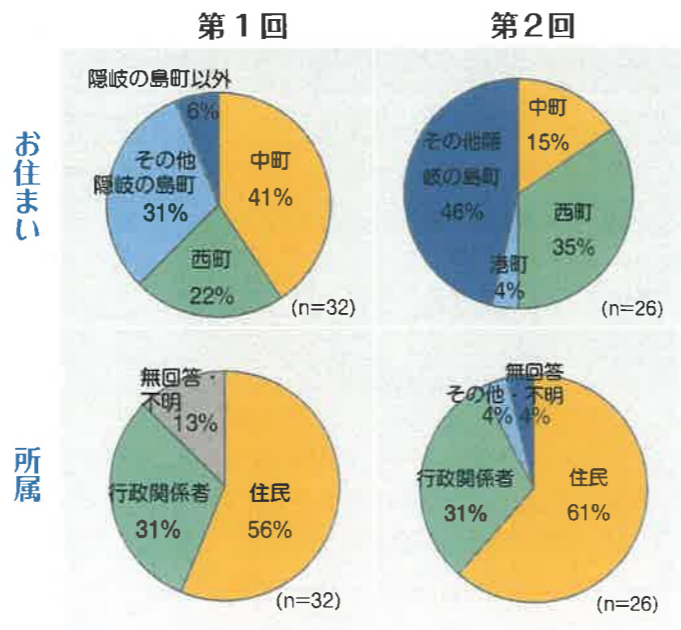
第1回談義で「もっと女性や若者の意見を聞きたい」「次代を担う人の学びにつなげたい」といったご意見から、隠岐高校・隠岐水産高校・西郷中学校の校長先生に趣旨をお話し参加をお願いしました。

30代以下の若い世代の参加が増えました



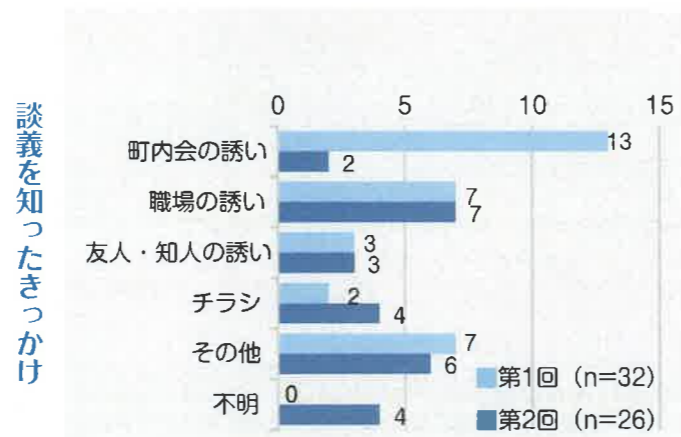
全体的に満足度は高いものの、不足要因として「発言だけでなく議論したい」「時間が足りない」「若者だけでなくみんなの発言が必要」という点があげられたため、次回は土曜の午後を使った議論とします。

しっかり議論できる時間帯に変更します



第1回談義で「西町や八尾川のことも話したい」といったご意見から、まち歩きルートや談義の内容を工夫したことで、第1回は中町のみなさん、第2回は西町のみなさんが多く参加してくださいました。

まちづくり談義のテーマを工夫していきます



第1回は、中町町内会からの参加が多く、職場や友人・知人、その他（先生や行政）、チラシによる参加もありました。この談義はどなたでも参加できるオープンな議論の場ですので、みなさんと議論しましょう。

談義はどなたでも参加していただけます



玄関口のまちづくり 1 談義ニュース

発行：隠岐の島町建設課 2018年11月

隠岐の玄関口である西郷港周辺のまちづくりについて、誰でも参加できるオープンな場で行う談義の結果を「玄関口のまちづくり談義ニュース」として発信していきます。



「将来を担う」いろいろな人が集いまちづくりを談義しましょう。西郷港は隠岐の玄関口。「暮らす」「商売をする」「観光客を迎える」を始めることにしました。このことになりました。西郷港周辺は、隠岐の島町の玄関口として古くから栄えてきた。いまでも昭和時代の賑わいは人びとに語り継がれています。しかし、人口が減少し、また車社会となって、昔の面影は薄れています。西郷港は、島後に帰ってくる人びとにとってはふるさととの玄関であり、島外から訪れる人びとにとっては、これからの旅の起点です。そこで隠岐の島町と島根県は、西郷のかつての賑わいを取り戻すための話し合いの場として「玄関口のまちづくり談義」を開始することにしました。このことになりました。第1回談義は、8月10日に開催しました。参加者のみなさんでフェリーターミナル周辺と中町のまちあるきを行い、気づいたことや改善点などを話し合いました。そのなかで、ターミナル周辺だけでなく、西町通りや港町の八尾川についても意見がありました。そこで、視野を西郷港、八尾川、宇屋川にも広げて、西町、東町、港町も含む地域の課題について談義を広げたい。第2回談義は、西町でまちあるきを行い、文化センターで愛の橋と西町通りの道路整備について談義を深めました。第2回の談義には、中学生や高校生、若いお母さんたちも参加して楽しく談義しています。次回の第3回談義では、宇屋川周辺を歩きながら東町について談義と八尾川の愛の橋を中心に談義を行う予定です。第3回以降は、愛の橋と道づくりを中心とした西郷のまちづくりへと談義を進める予定です。ぜひおいでください。

玄関口のまちづくり談義 全体スケジュール

H30 第1回	第2回	第3回	第4回	H31 第5回	将来のまちづくりへ
8/10 (金) 18:00～ フェリーターミナル集合 談義は中町集会所 ターミナル周辺のまち歩き	10/5 (金) 17:00～ 文化会館集合 西町と港町の八尾川沿いのまち歩き	12/8 (土) 13:00～ 隠岐汽船フェリーターミナル1階集合	12/22 (土) 13:00～ 文化会館集合	1～2月頃 第3回開催までに日程を決定します ※事務局で検討が必要な項目については第5回で報告し、他にも談義することの提案があれば追加で談義を行います。	→
<第1部> 12/8プログラム 東町宇屋川沿いのまち歩き & まちづくり談義	<第1部> 12/22プログラム みち談義 (ターミナル周辺や西町通り)	<第2部> はし談義 (道づくりから愛の橋)	<第2部> 空き家談義 (チャレンジショップなど)		

第1回 談義の ようす

西郷港フェリーターミナル周辺の「まち歩き」 気づいたことから解決方法を考えました



談義のポイント

1 ターミナル周辺の施設のつながり

「フェリーターミナルを出て向かう方法が分からない」「中町・港町へ動線を繋げる」「統一したデザインのサインや街路灯」「全体が分かる地図の掲示」など、既存施設やみどころを繋ぐための工夫についての意見が多くありました。

見どころは、暮らしの背景に森や神社、祭りがあり、その風情がとても良いと感じ、住んでいる人にとっては当たり前の景観がとても魅力的に映っていることが確認できました。

2 電柱等のハード対策

「フェリーターミナル前の電柱や電線が気になる」というご意見が多く、特にフェリーターミナル正面に大きな電柱があるのは景観を残念にしているといった意見がありました。

3 草取りなどの取り組み

「道路の草がきたない」という意見で、みんなで草取りをしたり、花を飾ってきれいにしたりと、まちや建物を明るくする取り組みをしたいといった意見が女性や中高生から多くありました。

4 空き店舗

最も多かった意見として「空き家（土地）・空き店舗」に関するもので、①活かす②壊す③建てかえといった方法で現状をなんとかしていきたいという思いを共有しました。

5 実践的な取り組みに繋げる

空き店舗などは、「高校生がチャレンジできる場として実験的に勉強の場にできないか」といったご意見があり、空き家・空き店舗対策の結果を地域に報告しながら活用していきたいといった方向を共有しました。



Dogo Saigo 玄関口



談義のポイント

1 汽船に続く道に歩く空間を!! 歩いて楽しいまち

ターミナル周辺の道について、「統一したデザインの歩く空間がほしい」「西町へ続く動線を」「歩いて楽しいまちにしたい」といった意見が多くありました。

2 西町の通りを歩きやすく!!

歩きやすさやデザインを工夫する他、暗いので街灯をつけてほしいといった意見がありました。

3 隠岐らしい川から見たまち・かっぱの息づくまち

「八尾川沿いのまちなみ」「子どもも好きなかっぱの息づくまち」といった隠岐らしさを意識した意見がありました。

4 愛の橋は地域の象徴 早く架け替えて!!

港町のためにも、西町のためにも、早く架け替えて欲しいといった意見が多くありました。

5 空き家の活用方法

活用のアイデアは、①空き家バンク制度、②フリースペース（子どもの勉強）、③古民家の活用の3つが提案されました。

中町商店街、港町の八尾川沿い「まち歩き」 気づいたことから解決方法を考えました



第2回 談義の ようす

Dogo Saigo

玄関口のまちづくり 談義ニュース 2

発行：隠岐の島町建設課 2019年2月

隠岐の玄関口である西郷港周辺のまちづくりについて、誰でも参加できるオープンな場で行う談義の結果を「玄関口のまちづくり談義ニュース」として発信していきます。



まち歩きの様子

第3回「西郷港周辺まちづくり談義」を開催しました。

まちづくり談義を行っています

「愛の橋」談義

隠岐の島町では、隠岐の島町の玄関口、西郷港周辺の賑わいを取り戻すために「まちづくり談義」を平成30年8月に開始しました。第1回の「中町街歩き」(8月10日)、第2回の「西町と八尾川まち歩き」(10月15日)、は平日の夕刻から2時間かけて行いましたが、参加者からの「もっと議論の時間がほしい」という意見を受けて、第3回からは午後1時から5時までたっぷり時間を確保して談義を行っています。

第3回談義を開催しました

第3回談義は、12月8日土曜に、前半の第一部「東町・宇屋川まちあるき」と後半の第二部「愛の橋談義」に分け、参加者60名が4時間の熱心な談義を行いました。

東町と宇屋川沿いの街歩き

第一部の東町と宇屋川沿いのまち歩きは、雪がちらつく寒い日でしたが、参加者のみなさんは、熱心に宇屋川の河口や橋、東町の道路の状況などについて観察し、意見交換を行いました。とくに河口部付近の工事現場では、担当者から、新しくできるスペースの活用方法について談義を進めるなかで検討する可能性が示されました。

まち歩き後の話し合い

まち歩き後の話し合いでは、宇屋川の水質や透明度の問題、大雨のときの増水の懸念、上橋の木の風情や中橋の錆、狭く段差のある道路、神社の参道や井戸のある風情、建物の高さが揃う景観について意見を交換しました。



第2部の「愛の橋」談義では、橋を設計するときの条件や周辺の護岸について、デザインや活用方法について話し合いました。架け替えの計画が示されてから長い時間がたっていること、西町の愛の橋商店街の現状や港町からの災害避難通路の緊急性を踏まえ、できるだけ早く架け替える必要があること、そのためには、橋詰めの家屋移転等が発生しないようにすること、また、現状の4mの幅員を維持することが必要であることが確認されました。地域の人々の願いである車が通れる橋にすること、橋の上ですれ違いができるようにすること、歩行者が八尾川の景観を楽しむことのできるスペースをつくることの必要性が確認されました。

橋の高さについては、船を通すために高くしてほしいという意見に対して賛否両論がありました。役場としては、船の通行や橋詰め処理などの問題に対応する必要があるので、材質は海水の影響を受ける鋼鉄ではなくコンクリート製の橋を考えていることを説明しました。最後に、前回の計画時から時間がたっているの、それに見合った魅力ある橋にするということで、意見が一致しました。

玄関口のまちづくり談義 全体スケジュール

H30 第1回 8/10 (金) 18:00 ~ ターミナル周辺のまち歩き&談義	第2回 10/5 (金) 17:00 ~ 西町、港町の八尾川沿いまち歩き&談義	第3回 12/8 (土) 13:00 ~ ◆東町宇屋川沿いまち歩き&談義 ◆愛の橋談義	第4回 12/22 (土) 13:00 ~ ◆みち談義 ◆愛の橋談義II (整備方針)	H31 第5回 2/23 (土) 13:00 ~ 文化会館 まちづくり構想図を描きます
--	--	---	---	---

※談義のテーマは地域で検討が必要なものを選定追加しています。
※開催の曜日や時間についても参加者アンケートの結果で改良しながら進めています。

▶▶▶▶▶ 来年度は、まちづくり構想の具現化について談義します
次号のニュースで年間スケジュールをお示しする予定です。

第4回談義を開催しました

第4回談義は、隠岐島文化会館を会場に、12月22日午後1時から午後5時までの4時間、65人の参加によって熱心な談義を行いました。

「みち談義」

前半は、西郷港フェリーターミナルを扇の要として、西郷地区の道路全体について西郷地区の道路の全体像について談義を行い、後半は、道路整備とも関連づけながら、第3回の談義を踏まえて、愛の橋について整備の方向を確認しました。

西郷港周辺では、国道・県道・町道を一体的にとらえ、住民や観光客が「歩きたい」と思うような道づくりの方向性が共有されました。八尾川右岸の景観の魅力について意見がある一方、「港周辺をウォーキングしているけれども、途中で憩えるスペースがない」といった指摘がありました。

県道の名前、中町と西町を隔てる丘陵の名前についても意見交換を行いました。国道には「天神通り」という名前があるという意見がありました。必ずしも地域で共有されていないことがわかりました。また、丘陵には「監獄山」とか「大城台地」とかの呼称があるものの、必ずしも丘陵全体の呼び名がないということもわかりました。西郷小学校や地域の墓所もあるこの丘陵は、西郷港周辺地区の交流を難しくしている要因の一つですが、どの地区にとっても災害避難場所として重要なところと、西郷港の玄関口としての景観を整備すること、丘陵にたくさんある坂道に名前をつけることなどが西郷港周辺地区の一体感をつくりだすために重要な点として共有されました。

「橋談義」

後半の橋談義では、前半の道談義と第3回での談義を踏まえた役場の対応について意見交換を行い、愛の橋の整備方針について確認しました。

まず、役場から平成23年に行った4回のワークショップの経緯について報告しました。今回の談義が異なるのは、町民だけが参加できる話し合いであること、役場と島根県関係職員も参加し、橋の機能やデザインについて、技術的な点、制度的、財政的な点、自然環境による制約などについての情報を共有しながら議論を進めていることです。

ついで、活発な談義を行い、つぎのような点が「愛の橋」の整備の方針として確認されました。



第4回談義の様子

「愛の橋」の整備方針

1 歩者共存の橋

幅員は現在の橋と同じ4m、高さも現状のままとします。

幅員は対向車がすれ違いできるように、また歩行者が八尾川の景観を楽しめるように中央部の構造を工夫します。高さについては現状のままとしますが、地盤や橋詰めの状況により最適な高さを工夫します。段差による歩車分離は行わず、人と車がお互いに安全に配慮するフラットな歩車共存の橋とします。

2 橋の素材

潮による腐食作用を避けるためにコンクリート橋とします。

3 橋のデザイン

橋の色やデザインは、談義のなかでみなさんと考えていきます。

西郷港周辺の道路全体の周遊ルートに位置づけることを試みながら、今後整備予定の西町の通りの色やデザインと関連づける方向で議論します。

4 災害時の避難

災害時には、防災計画・避難計画にもとづき、車は使わず歩いて避難するための重要な避難路となります。

実際に社会実験として避難訓練を実施することも考慮します。

5 スケジュール

2021年、2022年には下部工の整備、順調にいけば上部工を2023年度に行い、竣工は2023年から2024年を予定しています。

出水期である6月から10月は、川のなかの工事はできません。また、自然条件によって状況が異なってくることをご理解ください。

6 予算

予算は確保できています

7 仮橋

仮橋については、現在行っている測量の結果や橋詰めの処理など、いろいろな条件を考慮して可能性を検討します。

次回第5回まちづくり談義で検討結果をご報告します。

8 情報の共有

橋の整備の進捗状況について住民のみなさんとしっかり情報を共有します。



玄関口のまちづくり 談義ニュース 3

発行：隠岐の島町建設課 2019年4月

隠岐の玄関口である西郷港周辺のまちづくりについて、誰でも参加できるオープンな場で行う談義の結果を「玄関口のまちづくり談義ニュース」として発信していきます。



第5回談義参加者による記念撮影

第5回「西郷港周辺まちづくり談義」を開催しました

第5回の談義は、平成31年2月23日（土）13時から隠岐の島町文化会館1階和室で行いました。

はじめに、町役場建設課から第3回談義で宿題となっていた愛の橋の仮橋問題について説明を行い、「工期短縮」と「費用」の面から仮橋は設置しないという方針を示しました。

第1部の「まちづくり構想」談義では、これまでの話し合いの結果を基に、構想の骨格となる目次構成を示しました。また、この目次構成に沿って令和元年のテーマである「西郷港周辺まちづくり計画」を作成

することを確認しました。

談義の中では、台地や道、坂の名前にして新しく提供された古地図や文献を参照することができました。これまで西郷小学校のある丘陵地については、「監獄山」や「大城台地」などの名前があがっていましたが、江戸時代に丘の道を切り開いた櫻井仁蔵さんになんで「仁蔵山」、あるいは桜を植えて「仁蔵さくら山」と命名するアイデアが出ました。

第2部の「ターミナル」談義でも、将来に向けた整備や活用の方法について、活発な議論を行いました（中面参照）。

参加者アンケート結果を参考に
談義の進め方も工夫していきます

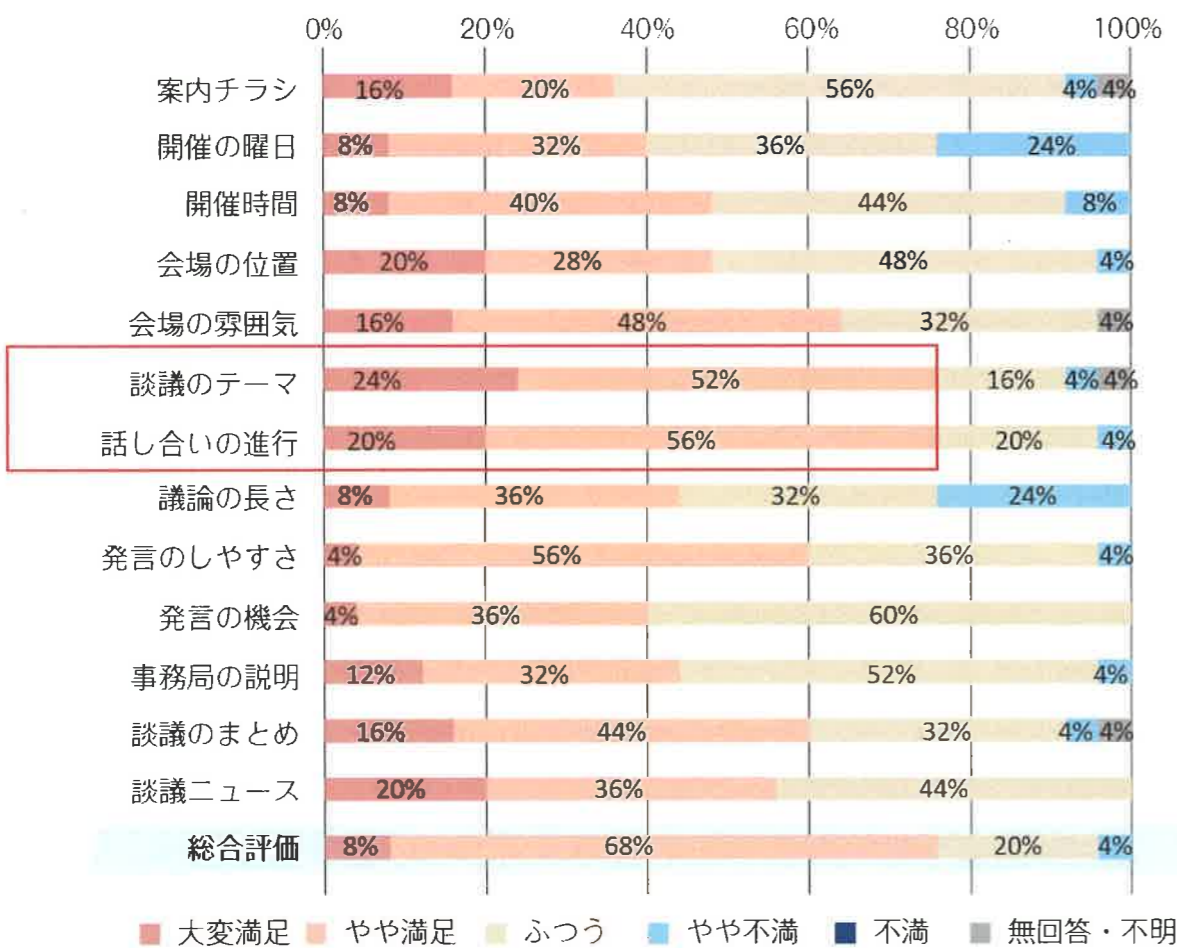
「西郷港周辺まちづくり談義」では、毎回参加者のみなさんにアンケート調査を実施しています。質問内容は、開催の日や時間帯、会場や談義の長さといった開催に関するものと、談義に取り上げたいテーマに関するものがあります。

これまでのアンケート結果で、まち歩きを行った後の談義には十分な時間が必要とのご意見があったことから、土曜日の午後に開催するにしました。また、まち歩きについても、中町、西町、東町で行い、今後は、港町でも行っていく予定です。

第5回談義で、項目ごとに満足度をお伺いしたところ、総合評価では「満足」の方が7割以上で、特に談義のテーマや話し合いの進行に対する満足度が高い結果となりました。

今年度は、「西郷港周辺まちづくり計画」をつくるための7回の談義を予定しています。引き続き進行役に一般社団法人コンセンサス・コーディネーターズ代表理事桑子敏雄氏をお迎えし、議論を深めていきますので、ぜひご参加ください。

第5回まちづくり談義の参加者アンケート結果【満足度】



今年度の談義も、みなさんと工夫しながら進めていきます。

玄関口のまちづくり談義 全体スケジュール

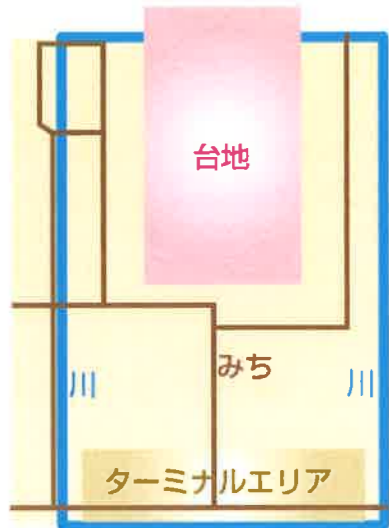
平成31年度 ~開催結果~					令和元年度 ~開催予定~								
H30				H31	R1								
8/10	10/5	12/8	12/22	2/23	4/20	5/25	6/29	7/27	9/28	10/26	11/30		
(金)	(金)	(土)	(土)	(土)	(土)	(土)	(土)	(土)	(土)	(土)	(土)		
18時	17時	13時	13時	13時	時間未定	13時	13時	13時	13時	13時	13時		
まち歩き&談義	ターミナル周辺のまち歩き&談義	東町の宇屋川沿いまち歩き&談義、愛の橋談義	みち談義、愛の橋談義Ⅱ（整備方針）	まちづくり構想、ターミナルエリアの談義	みち談義	玄関口のまちづくり計画について談義します							

※スケジュールは変更の可能性があります。

談義 1

まちづくり構想について

構想のエリアイメージ
(模式図)



本年度は「西郷港周辺まちづくり計画」を策定します。

第5回談義では、「構想の骨格」6つの骨格と、骨格を構成する項目ごとに方針や実施予定の事業を整理しました。平成31年度(令和元年度)は、構想の骨格をもとに、引き続き「西郷港周辺まちづくり談義」を重ねながら、みなさんと「まちづくり構想」を具体化するための「西郷港周辺まちづくり計画」を策定します。

本年度は「西郷港周辺まちづくり計画」を策定します

まちづくり構想の骨格

骨格を目次として、方針や事業を実行していく計画づくりを行います

1 ターミナルエリア

- (1) ターミナルエリアの整備
- (2) ターミナルの活用
(チャレンジショップ等)

2 みち

- (1) 道の名前
- (2) 歩いて楽しいみち
- (3) ウォーキングコース

3 川

- (1) 八尾川の護岸
- (2) 宇屋川の浄化
- (3) 親水スポット
- (4) 愛の橋
- (5) 景観を楽しめるスポット整備

4 台地

- (1) 避難の場
- (2) まちづくりの原点＝「仁蔵山」(名前)
- (3) 樹木管理
- (4) 台地の活用

5 まちのにぎわい

- (1) ポートプラザの活用
- (2) 空き店舗の活用
- (3) 空き家の活用
- (4) 住環境の整備
- (5) 広場の活用

6 リスクマネジメント
(防災)

- (1) 地震・津波
- (2) 火災
- (3) 土砂災害
- (4) 避難訓練
- (5) 空き家除去

ターミナルエリアの談義

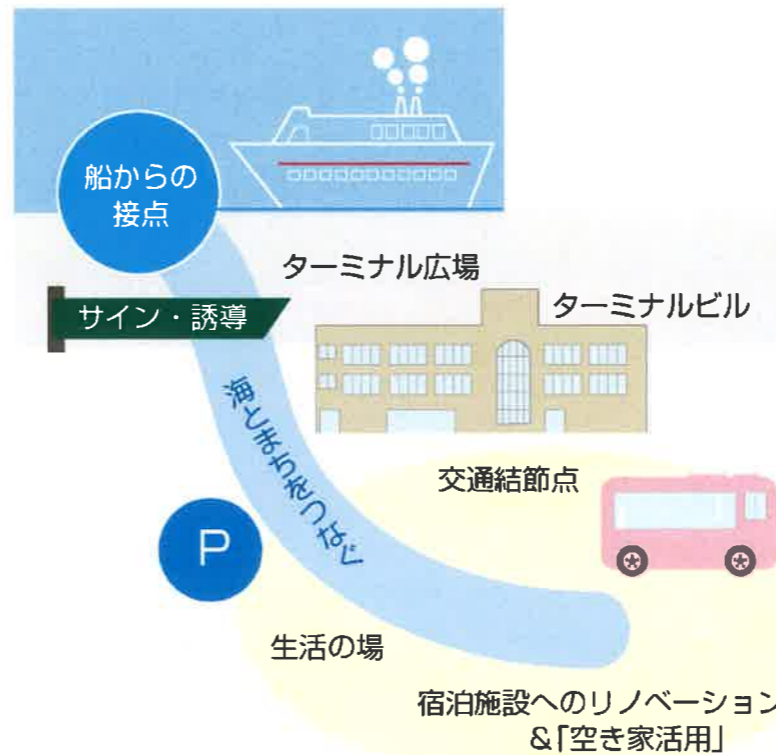
談義 2

「ターミナルエリア」について
アイデアを出し合いました

西郷港に入港する船からの映像で、西郷小学校のある丘陵やまちがどのように見えているかも確認し、「ターミナルエリア」について意見交換を行いました。

「西郷港周辺まちづくり構想」の骨格のひとつであるターミナルについては、将来どのような整備が望ましいか、また、どのように活用すべきかという課題についてアイデアを出し合い、「ハード整備が必要なこと」、「ソフト対策として実行できること」の2つの視点で論点を整理しました。

港に「おいと(音楽)」がほしい」といった意見や、「ターミナルからまちに歩いて出たくなるような工夫がほしい」といった意見が多く出ました。



ハード整備

- 船からの接点 (フェリーの降り口を3Fにしてビル全体を活用)
- ターミナル広場 (人が溜まる空間、イベント広場)
- ターミナルビル (役場の受付機能、古い時代からの写真展示、文化芸術施設発信センター、港内が見えるレストラン・カフェ、テイクアウトで楽しく飲食する場、休憩スペース、本屋、特産品開発の場、1Fの空間利用の再考、撮影スポット、地元の人も観光客集えるおしゃべり空間)
- サイン・誘導 (巨大3D地図、看板・掲示物の工夫)
- 海とまちをつなぐ (海からまちが、まちから海が見える)
- まちなみ (ターミナルを出てからの景観を考える)
- 駐車場 (駐車場の確保)
- 交通結節点 (交通結節点の機能強化、バスターミナルの統合)
- バス・配車 (レトロな連絡バス、主要観光スポットへの配車)
- 道 (きれいに歩いて歩きやすくする、ターミナル前の道に個性を)
- 生活の場 (若者が住めるエリア、ターミナルに生活機能を併合)
- リノベーション (宿泊施設を増やす、昼食難民解消)
- 空き家活用 (空き店舗・空き家を活用したにぎわいづくり)

ソフト対策

- 出会い (県外の人との出会い、島民の縁や癒やしの場)
- 情報 (情報発信の場、定期的なイベント)
- におい (隠岐に来た・帰ってきたと感じる香り漂う港)
- 音楽 (隠岐民謡のオルゴール、音楽があり歩きたくなる)
- マップ (インスタスポット地図、地域のイベント情報図)
- 活用 (グループ活動の練習・発表の場、子どもの遊び場)
- 子育て (ママとも広場、児童館、子育て支援センター開設)
- タバコ (ターミナル周辺吸い殻やゴミ対策)
- 防災訓練 (地域全体の防災訓練を実施)
- その他 (出港までに時間を潰せる場、隠岐ルールをなくす)



各自付箋にアイデアを書き、全体で整理するようす



出されたアイデアについて議論を深めるようす



玄関口のまちづくり 談義ニュース 4

発行：隠岐の島町建設課 2019年6月

隠岐の玄関口である西郷港周辺のまちづくりについて、誰でも参加できるオープンな場で行う談義の結果を「玄関口のまちづくり談義ニュース」として発信していきます。



西町のみち歩き（京見屋分店前）

第6回「西郷港周辺まちづくり談義」

西町の道路について、みち歩き&談義を行いました

第6回の談義は、平成31年4月20日（土）13時から老人会館で行いました。

はじめに、町役場建設課から西町の道路整備について、下水道工事が始まるため、それまでに側溝のタイプを決定しなければならぬことや、車道と歩道の幅、舗装の仕上げや色、照明について、みちづくりとして検討できることを示しました。その上でコンクリートの蓋がついたU字型側溝と、中町の道路で使っているスリット型の側溝について特徴を説明し、歩道幅については現地で歩道幅を体験しながら参加者同士で

意見交換を行いました。

みち歩き後の老人会館の談義では、側溝のタイプを「歩きやすい」という理由から「スリットタイプ」で提案することとした。ただし、匂いやゴミが溜まらないよう溜めマスをつけずできるだけ勾配をつけて八尾川に落とす、清掃面を考慮した大きめの蓋を一定間隔で設置するなど、工夫できることはしてほしいといった意見がありました。

歩道の幅は、歩きたくなるような安全に歩ける歩行空間を求める声が多かったこと

から、両側に歩道幅1.5mを確保できるようにすることを確認しました。

交通安全では、島銀前と京見屋分店前の狭くなったところは専門家の助言を仰ぎながらしっかり議論したいという意見があり、特に通学路となっている京見屋分店近くの空き家前の道路は見通しが悪く、防犯や防災の面からも課題が見えてきました。その他、目に優しい落ち着きのある舗装の色合い、歴史があるまちとしての重厚感の演出、汽船場からの連続性も考慮した照明など、いろいろな視点で話し合いました。

今後の予定

※スケジュールは変更の可能性があります。

	7	8	9	10	11
6/28 (金)	6/29 (土)	7/27 (土)	9/28 (土)	10/26 (土)	11/30 (土)
西郷小学校の児童による「こども談義」(名前談義)	13時	13時	13時	13時	13時
命名談義(坂・通り・台地)&空き家談義 &道の仕上げ・照明談義					

「玄関口のまちづくり計画」について談義します

<テーマ>
 ・ターミナルエリア（ビューポート含む）
 ・みち（西町+県道）のデザイン・照明
 ・港町のまち歩き
 ・空き家・空き店舗
 ・避難訓練 など

西郷小学校 6年生の児童と【小学生談義】を行いました

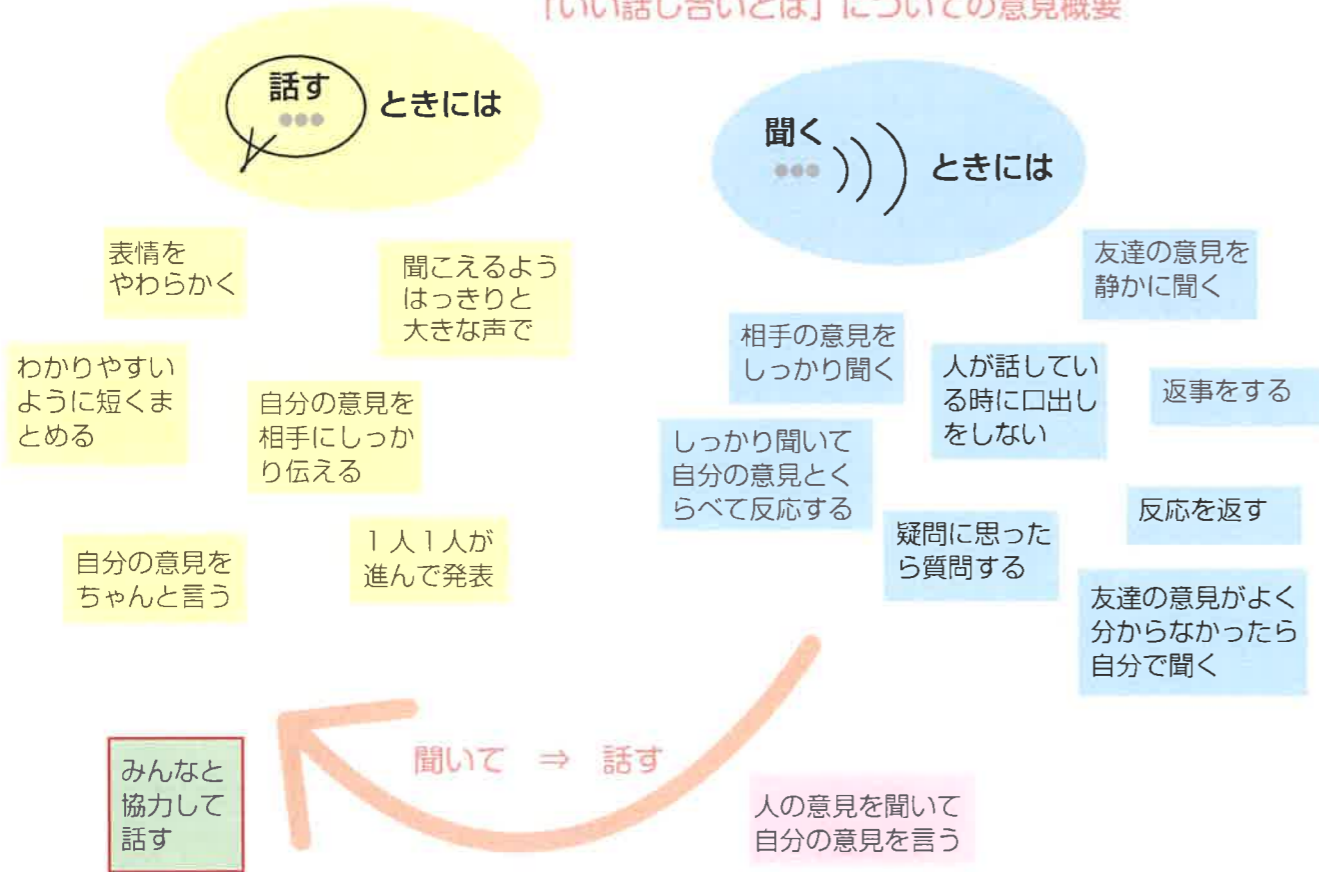
「いい話し合いとは」をテーマに小学生談義を行いました

「西郷玄関口のまちづくり構想」では、「世代をつなぐまちづくり」がテーマとなっています。そこで、次世代を担う小中高生もまちづくりの主体として、談義に参加する機会をつくってききました。

五月十八日には、西郷小学校で小学生談義を行いました。話し合いのテーマは、「いい話し合いとはどんな話し合いか」でした。西郷小6年生42人が8つのグループに分かれて話し合い、意見をまとめたあと、みんなの前で発表しました。①聞く人の目を見てわかりやすいように短くまとめる、②大きな声ではっきりと伝える、③話す人が話しやすいように、話す人の顔を見て反応を返しながら静かにしっかりと聞く、④人の意見を聞きながら自分の意見も整理し、みんなで協力して話し合う、⑤ということがこどもたちの考える「いい話し合い」です。

次回は、みんなで考えた話し合いの方法を使いながら、学校への通学路の名前をつけること、学校のある台地の名前を考えることというテーマで談義を進めます。

「いい話し合いとは」についての意見概要



西郷小学校の児童も談義を通じてまちづくりに参加しています。

第6回「西郷港周辺まちづくり談義」

みち歩きではいろいろな視点から課題を発見しました。この課題について、これからの談義で話し合っていきます。



子どもたちの登校時の安全をどう確保するかという課題が明らかになりました。通学路については、名前をつける作業を談義のなかで行います。



老人会館への近道を通り避難路としても使えるか話し合います。



Google Earth



中町のみちは歩きやすいという意見で一致したので、道路の側溝は「スリット型」で提案することとしました。今後溜めマスの蓋など、詳細についても談義していきます。



島銀前は道幅が狭く安全性をどうするか、また国道485号との連続性をどうするか、談義していきます。



老人会館で側溝タイプの説明を受けた後、みち歩きへと出発しました。



西町の道路の端は、段差やガタガタ音のする蓋で歩きにくいいため、歩きたくなる道路を談義していきます。



歩行空間の幅を1.1m幅のシートを使って体験し、今後は安全な歩行空間について話し合います。



バス通りということもあり、車と人が共存できるような道にするためのアイデアについて談義していきます。

まちづくりの視点

1. まちづくり構想では、**世代をつなぎ視点**から、小中高生の参加による取り組みを行います。(西郷小学校での話し合い、高校生チャレンジショップなど)
2. まちの空間的な構造は、海から「ターミナルエリア」「みち」「川」「台地」と続いています。中町・西町・港町・東町はそれぞれ台地を背にしているため、他のまちとの連携をとりにくい状況があります。平成30年度に開催した「まちづくり談義」では、**海とまちをつなく**ことでまちの魅力が見えてくると考え、台地をランドマーク(地域の目印)として「にぎわいづくり」と「災害時の避難(防災)」に繋げていきます。



ターミナルからはじまる「みち」「川」「台地」そこににぎわいを そして防災を

ターミナルエリア

玄関口に人が集い、海とまちをつなく起点であるターミナルの魅力をも高めるためには、まちの結節点としての整備、ポートプラザやターミナルの活用、高校生によるチャレンジショップなど、まちとつなくことでにぎわいを創出します。

みち

歩いて楽しいみちを目指し、周遊できるみちとして統一感を大切にします。「みち」や「坂」に名前をつけ、日頃からウォーキングコースとして活用することで、いざという時の避難路としても活躍します。特に西郷小学校の通学路である坂の名前は小学生も命名に参加します。

川

川を楽しめるよう八尾川沿いの環境整備や景観を楽しめるスポット整備、宇屋川の浄化や河口部の親水スポットの活用、愛の橋の架け替えを行います。川沿いの景色を楽しめるようにすることで、まちの魅力アップにつなげます。

台地

台地に名前をつけることや樹木管理を行うことで、日頃から台地に親しみをもち、避難の場としての認識を共有することで、世代を超えて台地を地域とつなげます。

構想の対象範囲全体

まちの魅力アップのため、空き店舗や空き家の活用、広場の活用などで住環境の整備を行います。また、防災の視点から空き家除去、対象範囲全体の避難訓練により、それぞれのまちをつなげます。



5 玄関口のまちづくり 談義ニュース

発行：隠岐の島町建設課 2019年7月

隠岐の玄関口である西郷港周辺のまちづくりについて、誰でも参加できるオープンな場で行う談義の結果を「玄関口のまちづくり談義ニュース」として発信していきます。



チャレンジショップの状況説明
西郷小学校6年生の児童で考えた第1～第6までの通学路の坂の名前を紹介

第7回「西郷港周辺まちづくり談義」

「構想図」「通学路の名前」「高校生チャレンジショップ」「西町の道路のデザイン」「空き家対策」をテーマに話し合いました

第7回の談義は、令和元年6月29日(土) 13時から西郷小学校2階フンクルームで行いました。

小学生や高校生からは、前日に行った小学生談義による坂の名前の提案と、7月26日(金)に行う高校生チャレンジショップに向けた状況報告を、役場からは、昨年度の話し合いの結果を基にとりまとめた「西郷玄関口のまちづくり構想」、空き家を活用するための制度、西町の車道と歩道の基本的な幅や舗装の仕上げや色について説明を行いました。参加者といっしょに坂の名前を話し合い、現在使っていない第1通学路を除く第6通学路までの名前を決めました(②仁蔵坂、③愛の坂、④乃木坂、⑤松坂、⑥だんだん坂)。これらの坂は避難路となっているため、一般の人にもわかりやすいよう、今後標識の整備を

検討していきます。

西町の道路は、色のサンプルだけでなく質感がわかる実物大の歩道サンプルを設置すること、危険な箇所は専門家の助言を仰ぎ、小学生や警察の意見を聞きながら進めることとなりました。

また、通学路の危険箇所は、避難路にもなっていることから役場で調査することを約束しました。

空き家活用では、空き家の改修に対して最大500万円の補助金制度(詳しくは役場までお問い合わせください)があることの周知、島外在住の方向けお盆相談会の開催、固定資産税調査に制度案内を同封といった積極的な情報発信の実行を確認しました。また、空き家情報の共有を、役場、商工会、自治会長に相談してみるなどの方法が示されました。

今後の予定

7/26 (金) 11:25～15:00 高校生によるチャレンジショップ フェリーターミナルでカインドリンク販売	8/31 (土) 13時 交通の専門家を招いて西町通学路談義 ターミナルエリア・ビューポート活用	9/28 (土) 13時 「玄関口のまち」	10/25 (金) 第3回 西郷小学校6年生談義 小学校のある台地の命名談義	10/26 (土) 13時 づくり計画」について談義します	11/30 (土) 13時 など
--	--	--------------------------	--	----------------------------------	---------------------

※スケジュールは変更の可能性があります。

- <主なテーマ>
- ・ターミナルエリア(ビューポート含む)
 - ・みち(西町+県道)のデザイン・照明
 - ・港町のまち歩き
 - ・空き家・空き店舗
 - ・避難訓練

出雲大社神門通りの整備で総合コーディネーターを務められた桑子敏雄氏を迎えまちづくり談義を行っています



小学校の通学路（坂）に名前をつける「命名談義」を開催しました

小学生談義の翌日、2019年6月29日（土） 第7回「西郷港周辺まちづくり談義」で坂の名前を決めました

- 第2通学路は、地域の恩人“桜井仁蔵（さくらいにぞう）さん”にちなんで「**仁蔵坂**」
その他の候補：だんだん坂、自然坂、京見屋坂
- 第3通学路は、愛の橋からの続きとして「**愛の坂**」
その他の候補：桜坂、多木坂、木村坂
- 第4通学路は、NOGINOBIHOUSEにちなんで「**乃木坂**」
その他の候補：みどり坂、三石坂、宇屋坂
- 第5通学路は、松の木にちなんで「**松坂**」
その他の候補：トゲトゲ坂、だんだん坂、急坂、急短坂、短坂、野鳥坂
- 第6通学路は、多くの人々が利用することに感謝して「**だんだん坂**」
その他の候補：桜坂、長坂、银杏坂、びわ坂、のびっこ坂、緑坂、天坂、笑顔坂など



第7回の談義は「西郷小学校」で開催しました

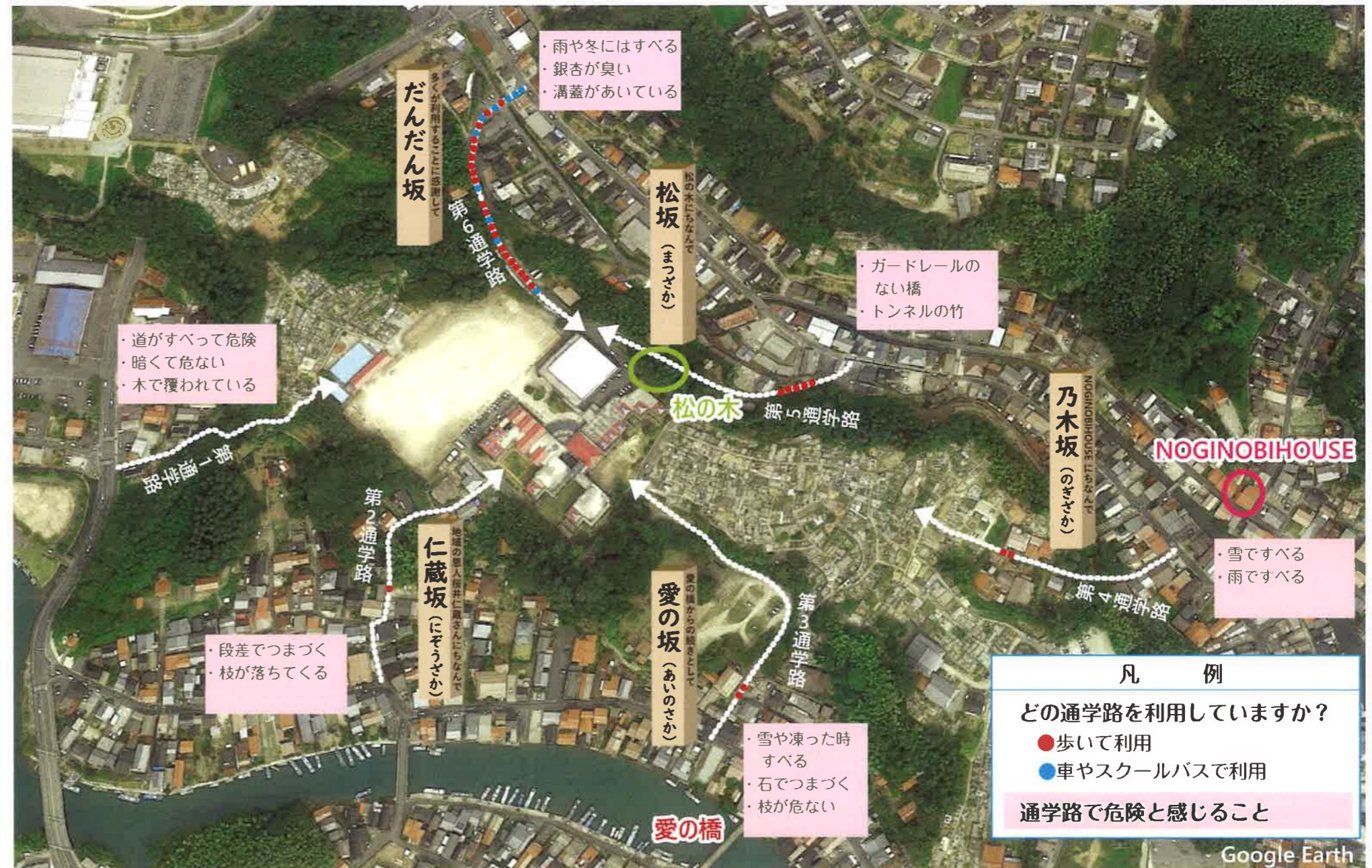
※第1通学路は、通学路として利用していないので、今回は名前をつけませんでした

こどもたちの提案を採択しました

7回「西郷玄関口のまちづくり談義」の前日に西郷小学校6年生の第二回「小学生談義」を開催しました（この談義は、今後文科省の教育改革で推進される「合意形成」の実践的授業でもあります。）

第二回は、第一回談義でまとめた「いい話し合い」の考え方を活用し、西郷小学校への通学路に名前をつける話し合いを行いました。こどもたちは通学路に名前をつけることで、地域の防災避難路の命名という大切なまちづくりに参加したことになります。

第三通学路「愛の坂」、第四通学路「乃木坂」、第五通学路「松坂」は、こどもたちの提案が採択されました。また、第六通学路には、「だんだん坂」と「桜坂」という二つの候補がありました。また、「いつも多くの人々が使う坂なので、感謝の気持ちを込めて」という意味で「だんだん坂」が採択されました。





玄関口のまちづくり 談義ニュース 6

発行：隠岐の島町建設課 2019年9月

隠岐の玄関口である西郷港周辺のまちづくりについて、誰でも参加できるオープンな場で行う談義の結果を「玄関口のまちづくり談義ニュース」として発信していきます。



岡山大学 橋本成仁 准教授による講演 「生活道路の交通安全について」

第00回「西郷港周辺まちづくり談義」

「西町の道路整備」「ポートプラザの利用」を中心に まち歩きと話し合いを行いました。

第8回の談義は、令和元年8月31日(土) 13時から西郷港フェリーターミナル3階で行いました。 前回の談義(令和元年6月29日(土))で、西町の道路整備では色や質感がわかる実物大の歩道サンプルを設置すること、危険な箇所は専門家の助言を仰ぎ、小学生や警察の意見を聞きながら進めることにしていましたので、今回、生活道路の交通安全が専門の橋本成仁(はしもとせいじ)岡山大学准教授に講演をお願いしました。橋本先生は、談義をリードしていただいている桑子敏雄(くわこうしゆ)さんと一緒に出雲大社神門通りの整備を行っ

た先生で、隠岐の島町では中町の通りの整備でもアドバイザーを務めていただきました。参加者のみなさんは、研究成果を道路整備に反映されている橋本先生のお話に熱心に耳を傾け、また、講演後は、先生と一緒に西町を歩き、島銀前の交差点や京見屋分店前の交差点についてアドバイスをいただきました。人と車との事故をなくすためにはどのような工夫が必要であり、また何が効果的かといった視点で道を歩き、意見交換を行いました。特に通学路となっている交差点では子どもの目線で見ることの大切さを学びました。(詳細は中面をご覧ください)

現在の取り組み状況について

西郷小学校の通学路 ～坂の名前について～

西郷小学校の通学路は第1通学路、第2通学路、...第6通学路と呼ばれています。これらの通学路は、地域にとって災害避難路でもあることから、覚えやすい名前がよいというので、坂道に名前をつけることになりました。そこでまず、これらの坂道を毎日利用している西郷小学校の6年生と小学生談義を行って、通学路の名前を提案してもらったことにしました。このことで、子どもたちは通学路でもあり避難路でもある坂道の命名という大切なまちづくりに参加することになります。

小学生のみなさんには、家族や近所の人たちにも意見を聞いてきてくださいとお願ひしました。また、談義後には、地域の方から古い呼び名の情報をいただきました。今後情報があればお寄せいただきたいと思います。最終的には、今年度内に役場で策定する「西郷港周辺まちづくり計画」のなかに記載することになります。

愛の橋について

愛の橋の架け替えは、①現在の状況を把握する、②状況に応じた対応を検討し予備設計をする、③工事のための詳細な設計を行う、④橋の架け替え工事を行うという手順で行います。現在は①の現状を把握するためのボーリング調査を終えたところとです。



川底の地盤の状態や岩盤の位置などの調査結果から、想定していたより砂の地層が厚いなどの状況が分かりましたが、今年度中を目標に手順②の状況に応じた対応を検討していきます。

高校生チャレンジショップについて

隠岐高校生の有志が西郷港周辺のにぎわい創出を目的として、7月26日(金)に、チャレンジショップを開催しました。簿記を勉強している高校生たちは、VEEC(ベック)という会社組織をつくり、仕入れや原価計算、接客の仕方を学びながら、ターミナルの賑わいを創出する工夫を実践しました。月明かりカフェの協力によりVEEC(ベック)が製造・販売したメニューは、新鮮なサバを使ったサバサンド、バイ貝のこ

※スケジュールは変更の可能性があります。

今後の予定

談義の結果や多方面からのご意見を踏まえ、最終的には役場で検討して計画を作ります。

第9回	第10回	第11回
9/27(金) AM 西郷小学校6年生談義	11/2(土) 13時	11/30(土) 13時
9/27(金) PM 西郷中学校2年生談義	まちづくり談義開催	まちづくり談義開催
9/28(土) 13時	まちづくり談義開催	まちづくり談義開催
第3回 高校生によるチャレンジショップ開催予定		

前年度の談義を踏まえて「西郷港周辺まちづくり構想」を作成しました。

【計画に盛り込むテーマ】
「世代をつなぎ」「海とまちをつなぐ」～にぎわいと防災の実現～
①ターミナルエリア
②みち
③川
④台地
など

今年度「西郷港周辺まちづくり計画」策定

まちづくり計画が完成するまでの期間にも、出来ることから試験的に実行ながら検討しています。



ックサンド、隠岐固有のびわと桃のフルーツサンドの3種類、味はとても高い評価で、あっという間に完売しました。 チャレンジショップ第2段は、9月16日(祝)に、月明かりカフェで行い、やはり大変な人気で商品は短時間で完売しました。この様子は、新聞でも紹介されました。

西町の道路整備と交通安全について

「まち歩き」ができる歩行空間や、安全な通学路を実現するための工夫点をたくさん学びました。「生活道路の交通安全」の視点



交通事故による死亡者数は、近年減少傾向にあるそうです。車と車の事故では、衝撃を吸収する車体やエアバッグの出現、自動安全装置の開発など、技術の進歩で命を守る取り組みが進んでいます。ところが、人と車の事故はあまり減っていないそうです。

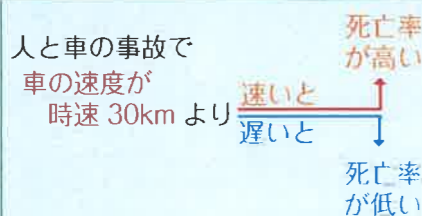


狭い道での人と車の交通事故を防ぐためにはどうすればいいのでしょうか。

1. 入ってくる車の量を減らす
2. 車の速度を落とす
3. 人と車の距離をとる



時速 30km 以下で走行することで死亡事故を防ぐそうです。



現在、島銀前のところはとても狭く、車にとっては不便に感じるかもしれませんが、速度を落とさなければならないことで交通安全にとっては良いほうに影響していると考えられるそうです。しかし、交差点付近では車同士のすれ違いが困難であるため、停止線を西町寄りに移動させるといった工夫が考えられます。



白線（路側線）から歩行者が通る部分（歩行者帯）を着色することで、車の速度を抑制する効果があるそうです。実験結果から赤や黄色の方が、青や緑の着色より少しだけ効果があるようです。西町の道路では、「落ち着いた色彩にしたい」という方向で意見がまとまっていたので、実物の色や質感がわかるものを準備して、色や滑り止め効果を確認したり、水をかけた時の色の変化を試したりしました。サンプルを見た地元の人からは、「もう少し明るい色でもいいかな」といった意見も聞かれました。



おとなと子どもにどこまで見えているかの実験をしたところ、視野に大きな違いがあったそうです。子どもは、上下、左右ともに見える範囲が狭いそうです。つまり、子どもはおとなに比べ、車が近づいてきても見えていないことになります。



おとなと子どもを対象に、車が近づいてきたとき、安全に渡れると思う限界でボタンを押してもらう実験をしたところ、向かってくる車の速度と安全に横断するために必要な距離を判断する能力に大きな違いがあったそうです。おとなは、車の速度が上がれば安全に渡れる距離が長くなるということを確認しているようですが、子どもは車の速度や車との距離を認識できなかったそうです。つまり、子どもは接近する車の速度や車との距離を判断しにくいので、安全に横断することが難しいということになります。



交通死亡事故を年代別にみると、65 歳以上の高齢者の割合が多いそうです。しかし、1 歳刻みの年齢別にみると、7 歳が多いそうです。幼稚園まではおとなと手をつないで歩いていた幼児が小学校へ入学し、友達ができてひとりで遊びに行く年齢となります。自宅から 50m あるいは 100m 以内での事故が多いそうです。



西郷小学校への通学路と西町の道路の交差点では、「子ども眼鏡」という 7 歳の児童の視野を再現する眼鏡を装着し、子ども目線で道路や車の走行を確認しました。大人に比べ視野が狭いため、横から来る人や自転車、車に気づくのが遅くなることがわかりました。安全な通学路とするためには、車が速度を落とすことと、道路の端から離れた真ん中を走行する工夫が必要です。

人と車の事故を減らすための工夫で大切なこと

- 生活道路に入るところでは、ドライバーに「この道は何か普通の道と違うぞ」と思わせる。
- ドライバーのイライラの限界と、できるだけ速度を落とす境界の、時速 30km 以下で走るような雰囲気のある道にする。
- 車はできるだけ道路の真ん中を走り、減速してすれ違い、また真ん中を走行する道にする。

今回は西町の道路について話し合いましたが、東町から港町まで西郷港周辺のまちを歩いて周遊できるよう「みちをトータルで考える」取り組みの一環です。

ポートプラザ 1階・2階の利用について

ポートプラザの1階・2階が空いたら何に利用したいか、アイデアを出し合いました。

- 昼食難民解消のための飲食店+憩い待ち合わせのスペース（2Fに複数の店舗があり、どこかのお店が開いている信頼感）
- 島の特産品を売るところ（あんき市場のような～地域の人、観光客も買えるところ～）
- コンビニ、ATM、振込、住民票がとれるところ
- 昼も夜使える賑わいのスペース（飲食スペース）
- 観光客も地元の方からも支持されるお店
- 子ども連れも楽しめるスペース
- 地域の人たちも楽しめるスペース
- イベントや芸能（民謡ショー）、文科系発表スペース
- シェアオフィス（仕事で来島した方が使えるスペース）
- 1Fをぶち抜いて駐車スペース
- 2Fの窓から海が見えるような場所に（吹き抜け部分は床に）
- 吹き抜けをエスカレータースペースにする
- エントランスの再配置と工夫が必要
- 風呂に入りたい
- 旅行代理店の機能拡充（一畑トラベル）

ポートプラザの利用については、談義の意見や近隣の人々からの提案などを参考に、役場で関係各課と協議・検討して、最終的には総括的に決定します。（今年度）





玄関口のまちづくり 談義ニュース

発行：隠岐の島町建設課 2019年10月

隠岐の玄関口である西郷港周辺のまちづくりについて、誰でも参加できるオープンな場で行う談義の結果を「玄関口のまちづくり談義ニュース」として発信していきます。



天神さん前に集合して港町のまち歩き



フェリーターミナル3階で談義

第9回「西郷港周辺まちづくり談義」

港町のまち歩きと

話し合いを行いました

第9回談義では、令和元年9月28日（土）午後1時、天神さん前に集合した後、川沿いを八尾橋へ、そのあと裁判所脇を通り、路地を抜け、愛の橋通りから合同庁舎まで巡って、気づいたことを付箋に書きながら港町を歩きました。

まち歩きの後には、フェリーターミナル3階へ移動し、前日に行った西郷小学校や西郷中学校との談義結果の紹介、まち歩きで感じた港町の課題、丘の名前等について話し合いを行いました。

港町のまち歩きで出た意見は、「消防活動ができないほどの狭い路地が続くため火が出ると大変なことになる」「初期消火に向けた消火栓の整備は進んでいるが、消防団の若返りが必要」「百年の計で若い人が住み続



けられるよう建て替えを可能にする制度整備」「せめて幹線道路だけでもきれいにし、時間をかけてでもよくなっていく方向が見えることで住民は安心する」などでした。
また、川沿いや海が近い景色はとてもよいという意見がある一方で、地震・津波・火災といった災害への備えについて、「水面が近い分、津波がきた時の避難のことを考えておく必要がある」などの意見が多く出されました。
他の意見は、下水の勾配をつけた匂いの解消、下水路の蓋の工夫、空き家撤去、風の通り、漁具などの整理、係船場に似合う街灯の設置、遠い駐車場の問題についてなどで、これらも含めた生活環境と景観形成の課題について談義しました。

次回談義の予定

第10回まちづくり談義（避難訓練の意見交換）を開催します

時間：11:00～13:00
場所：西郷小学校体育館

11/2
(土)

談義に先立ち、東町・中町・西町・港町自治会役員を中心に避難路点検（避難訓練）を実施します

◆10:00に各地区を出発 → 避難行動や、避難路の確認を行います



避難路点検（避難訓練）は自治会役員を中心に「まずはやってみよう！」としていますが、一般参加もお待ちしております
出雲大社神門通りの整備で総合コーディネーターを務められた桑子敏雄氏を迎えまちづくり談義を行っています

西郷小学校が立地する「台地」と「通学路の坂」の名前について

丘の名前については、これまでの談義でも話題になってきましたが、その後の調べで「隠岐島誌」に「大城山」「おおじろやま」と記載されているという報告があり、これを踏まえて、まちづくり談義では大城山という方向で考えることになりましたが、読み方は、原文に忠実に「おおじろやま」とするか、呼び慣れている「おおじろ」として「おおじろやま」とするかを考

もたちの意見もあり、また、まちづくり談義でも、呼び慣れた名前があるなら、災害時にもわかりやすいので、「こんぴら坂」にしようといった意見で一致しました。

西郷小学校は災害時の避難場所、小学校へ登る坂は避難路となっています。台地や坂の平常時の呼び方を決めることは、非常時にどこを通ってどこにいかなければならぬかということを確認することにつながります。

そこで、非常時に備えるためにも、ウォーキングや墓参り、遊び場などで活用することが大切であるという意見で一致しました。

西郷玄関口のまちづくりでは、歩きたくなるような「みち」や「賑わいづくり」も目指しています。

通学路以外にも「寿坂」「供養坂」「田中坂」など、地元のみなさんに親しまれている呼び名について、情報を整理し、賑わいづくりにつなげていきたいと考えています。ぜひ、みなさまからの情報をお寄せください。

地域で呼ばれている名前、歴史、子ども達の意見、おとなの意見から命名を考えています。



→ 最終的には、今年度役場で策定する「西郷港周辺まちづくり計画」の中で決定します。

テーマ

大城山をどのようにしたいか

西郷港周辺まちづくり談義は、「世代をつなぐ」まちづくりと位置づけ、小中高生たちの積極的な参加を進めています。

今回で3回目となる小学生談義は、令和元年9月27日(金)に行い、第一回の「よい話し合いとは」第2回の「通学路の坂に名前をつけよう」に引き続き、今回は「小学校がある丘をどのようにしたいか」といったテーマで話し合いました。小学校の丘は、「隠岐島誌」に「大城山」(おおじろやま)と名付けられていたことから、8班に分かれて、この大城山をどのようにしたいかを話し合い、また、話し合った結果を発表しました。

大きな声でわかりやすく発表し、聞く人は発表する人の方を見て真剣に話を聞くという態度で、「桜や隠岐島のいろいろな彩りゆたかな木のある自然豊かな丘にする」、「子どもが楽しく遊べる場にする」、「観光客も楽しみで登ってられる丘にする」といったアイデアを出し合い、よい話し合いを立派に実践しました。



- 1班 ● 整備 (木を切って花を植える)
- 置きもの (ベンチ・ライト・オブジェ)

- 2班 ● 観光スポット (展望台)
- ～大城山に登ってくるように～
- 宿泊 (展望できるログハウスなど)

- 3班 ● 遊べる場所 (公園・動物園)
- 観光地にする (ホテル・自然)

- 4班 ● 木を植えてきれいにする (桜など)
- 楽しくにぎやかなところをつくる (VECC)

- 5班 ● 遊び場 (アスレチック、地下秘密基地)
- ながめをよくする (倒れそうな木を切る)
- ～展望台～

- 6班 ● みんなでゴミを拾う日をつくる
- 公園をつくる (遊べる)

- 7班 ● 自然を再利用する (木を植える)
- 整備・作る (アスレチック、キャンプ)

- 8班 ● 自然を守る
- 遊ぶ場所を作る (アスレチック)



第3回
小学生
談義

テーマ

よい提案・話し方の仕方とは

令和元年9月27日(金)、西郷中学校3年生と行った中学生談義では、11月14日に開催される「こども議会」で町長へ提案するためのテーマについて話し合いました。どのようなテーマにするか、提案までには何をしなければいけないのか、いつ頃の項目を実施するのかといったスケジュールをリスト化するなど、各グループで趣向を凝らした話し合いを行いました。

談義の前半では、「よい提案・話し方の仕方とは」町長の気持ちになって考える。として、最も大切な心得をひとつ、各グループで考え、発表しました。

「主張の質」「メリットのある町民目線のアイデア」「どの世代も喜べる隠岐が盛り上がる提案」「話し方・内容・見せ方で話し方が最重要」「話し方(声のトーン・語尾を下げる・アナウンサーのように)」「礼儀正しくジェスチャーを用いて、質問攻めにあってもくじけな心」「まちの課題を解決する意見」「ゆっくり笑顔で話す」といった内容でした。子ども議会ではこの成果の実践に期待しましょう。

テーマには、まちづくりや活性化なども含まれています。

中学生は、今後10時間かけて、既存資料しらべ、電話や訪問による調査、発表資料作成を行います。

中学生 談義

テーマ

中学生議会で提案する「テーマ」と「提案までにするんじや」



こども議会へ向けて

- 1 漁業の後継ぎを考える (インタビューや調査から提案する)
- 2 隠岐を観光のしやすいまちにしよう (ヒアリング&課題解決の方法を考える)
- 3 イベントを考えます
- 4 まちおこし (一石二鳥のアイデアについて調べて、その内容から提案を考える)
- 5 ターミナル整備と周辺整備の5つの提案を考えます
- 6 まちづくりと観光をテーマにアイデアを出し合いました (こどもがゆっくりできるなど)
- 7 医療をテーマに課題解決に向けたインタビュー&資料しらべ
- 8 福祉をテーマにスケジュールを組み立てました

訓練を振り返っての主なご意見

高齢者の避難への配慮、夜間避難への備え、来訪者への情報発信などのご意見が出されました。他の地区のご取り組みを参考にしながら、今後の活動につなげることを確認しました。

急な坂道・狭い道

坂が急で高齢者は大変

急な坂や階段に手すりがない

途中追い越しできるスポットがほしい(休憩できる)

道幅が狭い

八尾坂の中央に手すりができて登りやすくなった

道のすぐ横に深い段差があって危険(こんびら坂)

雨天時はすべりやすくなる(特に冬は危険)

来訪者への対応

島外から来た人への情報発信もほしい(標識・放送)

樹木の管理

地震による倒木情報を早めに得て、別の避難路へ誘導(松坂)

樹木の管理をしないと大きくなる

避難と荷物・車

急に津波がくるとなり荷物を持って坂を登るのは大変

港町から車で愛の橋を渡るにはれ違いできず狭い

川を渡っての避難

港町からの避難には強固な橋が必要

やっぱり愛の橋が必要

港町からの避難に早く愛の橋をつくってほしい

運営について

津波より大雨の避難訓練をしてほしい

スタッフの準備がわるい

夜間避難

夜は暗い(外灯ほしい)

地図に橋の名前があるとよい

地図がわかりにくい

訓練の内容が通知だけでわかりにくい

時間配分がわるい

昼食がなくおなかがすいた

第10回まちづくり談義は、令和元年11月2日(土)、津波を想定した防災訓練と同時に開催し、92名が参加しました。はじめに避難訓練を行い、自宅から避難路を通り、避難場所である西郷小学校へ集合しました。つぎに、西郷小学校の体育館で談義を行い、訓練の振り返りを行いました。詳しくは中面をご覧ください。



訓練後の談義で、訓練の振り返りを行う様子

第10回「西郷港周辺まちづくり談義」

防災訓練と

まちづくり談義を行いました

Dogo Saigo

玄関口のまちづくり 談義ニュース 8

発行：隠岐の島町建設課 2019年12月

隠岐の玄関口である西郷港周辺のまちづくりについて、誰でも参加できるオープンな場で行う談義の結果を「玄関口のまちづくり談義ニュース」として発信していきます。

次回談義の予定

これまでに、約1年半をかけて10回の談義を開催し、みなさんと話し合ってきました。

平成30年8月10日(第1回談義)～令和元年11月2日(第10回談義)



みなさんの意見や町内の意見を基に、関係機関で協議しながら策定を進めている「西郷玄関口まちづくり計画(案)」について意見交換を行います。

1/16
(木)

第11回まちづくり談義を開催します

時間：18:30～

場所：隠岐島文化会館

<テーマ> 構想図を基に、「防災」と「まちのにぎわい」の視点から計画に盛り込む内容について確認していきます。

- ターミナルエリアに求める機能について
- 歩いて周遊できるルートについて
- 川沿いの景色を楽しめる川づくりについて
- 小学校のある台地とまちのつながりについて

連絡先 隠岐の島町役場 建設課 (担当：石田・西尾) ☎ 08512-2-8564

出雲大社神門通りの整備で総合コーディネーターを務められた桑子敏雄氏を迎えまちづくり談義を行っています

防災訓練を行いました

防災訓練は、午前9時50分に地震が発生したという想定で、午前10時に地震による津波発生と避難を促す放送を行いました。地震発生や放送を合図に自宅を出発し、避難場所である西郷小学校へ向かいました。避難路となっている小学校の坂を登り始めたのは、早い人で10時5分、全員が西郷小学校へ集合したのは10時13分で、地震発生から23分後でした。

島根県地域防災計画の基礎資料となる「島根県地震・津波被害想定調査（平成30年3月）」によると、西郷港へ最も早く津波が到達するのは、鳥取県沖合（マグニチュード8）の26分で、時間内に避難できました。

避難後まもなく、町教育委員会が体育館の鍵を開けに駆けつけ、一回は体育館の中へ移動して安否確認のための名簿記入を行い、避難生活開始の流れを確認し、防災訓練は終了しました。



談義で訓練をふり返りました

防災訓練後、11時より避難行動についての意見交換を行い、防災訓練は初めての地区から毎年実施している地区まで様々でしたが、いざという時を考え、日頃から地域の唯一の高台である「大城山」に位置する西郷小学校へ登ってみるこの重要性を確認しました。

また、避難路は急な坂が多いため、坂を登る大変さ、安全面から手すりの重要性、夜間避難を考えた照明の必要性などを確認し、避難路は緊急の際の道として災害時に安全に機能することが重要であると感じることができました。

今回の避難訓練のように、台地を挟んだ反対側の地区の人と一緒にアイディアは、談義の中から生まれたもので、地域の人々の視線が、小学校のある台地へと向けられることを期待するものです。

西郷小学校の通学路に名前をつけ、地域の人も島を訪れた人も理解でき、いざというときの避難路として確認するため、「大城山を避難場所とする地域防災訓練をやってみよう」と実施しました。訓練を継続する「ことば、地域のひとびとの助け合いの重要性」についての意見が多く、今後の台地の活用についても共有できました。

引き続き合同で避難訓練を行う必要性を感じ、談義を終りました。



どの坂を登って避難しましたか？

- 港町の方
- 西町の方
- 中町の方
- 東町の方

東町・中町・西町・港町から避難路を通り、西郷小学校のある「大城山」に集合しました